

## ■ 整備方針

釜石鶴住居復興スタジアム（仮称）は、ラグビーワールドカップ2019（以下、RWC）開催の基準を満たし、大会開催成功へ導くスタジアムであることが必須条件である。

しかしながら、一過性に終わらない継続的な沿岸地域の活性化のためには、単なるスタジアム機能に留らず複合的な利用形態にも柔軟に対応し、将来に渡り使われ続ける施設であることが重要となる。

本計画は、後利用に重きを置いた計画とし、会期中選手たちが使用した諸室を他事業へ展開できることや、スポーツ健康施設として日常利用ができることはもちろん、スポーツ文化を継承すると共に防災教育拠点としての活用も考慮するなど、多面的・戦略的な展開可能性を備えた施設整備を目指す。

## ■ 公園計画（後利用時）

メイングラウンドを中心に「ウェルカム広場」、「おもてなし広場」、「メモリアル広場」の3つの広場を配置し、多様な利用をサポートし市民に親しまれる交流拠点の創出する。（右図参照）

大会と市民イベントの同時利用にも対応できる配置計画。

## ■ スタジアム計画（RWC開催時）

RWC大会時には、常設席6,000席に仮設席10,000席（下図：黄色部分）を設置することで、大会に必要とされる席数を確保する。



《4つの基本的な考え方》

- ① **世界をつなぐ**  
—ラグビーの聖地・釜石を世界に向けて発信—
- ② **市民をつなぐ**  
—憩い、交流の場としての市民の一体感を醸成—
- ③ **安心をつなぐ**  
—復興の原動力として安全、安心なまちづくりをリード—
- ④ **未来へつなぐ**  
—まちに活力を生み、賑わいあるまちづくりをリード—

